

## 第2回 小規模校教育研究部 実践内容

浜松市立水窪小学校 丸山 里香

### 1 ICTの活用を通じた個別最適な学びと協働的な学び

本校では、1・2年生合同(異学年同内容異程度授業)の生活科の学習を実践している。

生活科「どきどきわくわく町たんけん」の学習で水窪の町内を探検して見つけたことや、地域の方々と交流したことをクイズにまとめた。そして、水窪以外の友達にも知らせたいという声の子供たちから上がったことで、犬居小学校1年生とMeetの授業を行うことにした。同じ1年生、人数も5人、小規模校という同じ環境の中で、子供たちが発表を通して、互いの地域のよさに気付くことをねらいとし、Meetの授業を実践した。



#### (1)個別最適な学び

子供たちは、自分が体験して分かったことをクイズにして表現し、犬居小学校の友達に紹介した。商店街を中心とした探検だったが、地域の人との交流の中で、お店の人にインタビューしたことや聞いた話についてのクイズにしたので、より水窪のことを知ってもらうことができた。一人一人が感じ取った気付きを出題したことで、個に適した学びを充実させることができた。

#### (2)協働的な学び

自分の地域のことを他地域の友達に知らせるために、目的意識と相手意識を明確にするとともに、ゴールの姿を事前に伝えた。(犬居小学校の1年生に水窪のよいところを知らせよう) そのために、1年生と2年生は、協力して探検したことを新聞にまとめ、最後にクイズを出題した。これにより、異学年での協働的な学びがより活発になり、学びに向かう力が向上した。実際のMeetの授業では、犬居小学校の友達と自己紹介をし合うことから始まり、授業の最後には、子供たちから、「犬居小学校に行ってみよう。」「春野っていいところだね。」という声が上がった。1・2年生との異学年の協働的な学びと他校との協働的な学びができ、充実した表現活動や追究活動ができた。

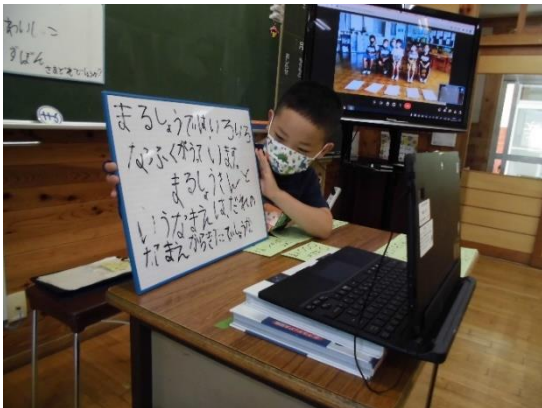
#### (3)ICT支援員との協働的な学び

Meetの授業では、互いの学校でも、ICT支援員にも入ってもらい、授業を進めた。それにより、子供たちが他校の児童にどのように映っているか、見にくいことはないかを確認しながら進めることができた。

また、授業の事前の打合せも、教師と支援員で何回も実施するとともに、前日には、犬居小学校の先生とICT支援員にも参加していただいたことで、細かな点まで留意しながら授業を展開することができた。教師だけでなく、ICT支援員が参加することで、専門的な技術を高めるだけでなく、安心して授業を進めることができたということは、効果的な実践だった。

#### (4)成果と課題

- ・ 初めての Meet の授業で不安もあったが、教師がICT教育に積極的に推進することの大切さを実感できた。さらに、極小規模校では、他校との交流をICTを活用して充実させることができることが分かり、子供たちにとっても、学びの灯がともる効果的な活動だと思った。
- ・ 今後は、生活科の授業だけでなく、国語科や音楽科などでも行い、他教科や特別活動などとも関連させ、意図的・計画的・継続的に実践を重ね、ICT教育の向上を図っていきたい。
- ・ ICT支援員と今後も連携を図り、オクリンクやジャムボード等を活用した学習や、複式授業での効果的な活用を校内研修とも関連させ、より子供たちの学びの充実へと深化・発展させていきたい。



【学年通信で保護者に発信】

【児童の感想】




浜松市立水窪小学校 第1学年 学年通信 No.7

はじめのいっぽ

令和4年7月1日

### オンライン授業

6月30日(木)の生活科の時間に、大居小学校1年生とオンライン授業をしました。「ミニミニ水窪探検ハイク」を通して分かったことをクイズにまとめ、大居小学校の友達に紹介しました。初めに行った自己紹介では、どの子もしっかりと自分の好きな遊びと教科を紹介しました。クイズでは、暗記して堂々とした態度で発表できました。子供たちから、「春野に行きたくなった!」「すごい楽しかった!」という声が上がりました。水窪のよいところを知ってもらうとともに、春野地区のよいところやすてきな場所を知ることができ、とても価値のある交流ができたと思います。

・ きょうは、オンラインじゅぎょうのクイズが、たのしかったです。

・ いぬいしょうのおともだちとであえて、うれしかったです。

・ オンラインじゅぎょうが、たのしかったです。てんぐまんじゅうを、とちゅうでたべたくなりました。

・ きょうのせいかつで、いぬいしょうのひとたちともんだいことができました。また、やりたいです。